W3T

本科１期４月度

解答

Ｚ会東大進学教室

一橋大世界史

1章　中世西欧史Ⅰ

添削課題

解答例

11 世紀後半から，ローマ教皇と神聖ローマ皇帝との間で叙任権闘争が繰り広げられた。神聖ローマ皇帝は聖職者の地位の任命を通じて，教会を帝国の統治に利用しようとはかった。世俗権力の影響を受けた教会内では，聖職売買や聖職妻帯といった弊害が広がった。これがクリュニー修道院から始まる教会刷新運動の要因となった。改革を推進する教皇グレゴリウス７世は，皇帝による聖職者の任命を聖職売買と見なして神聖ローマ皇帝と衝突し，両者の対立はグレゴリウス７世が皇帝ハインリヒ４世を破門するカノッサの屈辱にまで発展した。こうした対立は教皇権の伸長につながり，11 世紀末，ウルバヌス２世はクレルモン公会議で聖地奪回の十字軍を提唱した。叙任権闘争は皇帝ハインリヒ５世の時代にヴォルムス協約で一応の妥協を見て終結した。この妥協によって，西欧カトリック世界は教皇と皇帝の２つの普遍的な権威が君臨する楕円的世界であることが決定した。(395 字)

解説

《叙任権闘争》

叙任権闘争は過去にも一橋大学で何度も出題されており，他大学でも出題されることが多いので，この問題も何とかなりそうだと思った方も多いだろう。しかし，十字軍が叙任権闘争の途中に起こっていることに気を払って学習していないと，教皇権の伸長の話をカノッサの屈辱だけで説明することになり，解答が単調になってしまう。

やはり，気になるのは指定語句のハインリヒ５世であろう。これがヴォルムス協約の時の神聖ローマ皇帝であることを試験会場で思い出せた受験生は少なかったと思われる。何とかウォルムス協約のときの皇帝かな？ と思っても，そのときの教皇は？ と聞かれたらもうお手上げであろう。ただ，このような語が１つ使えないからといって落胆する必要はない。叙任権闘争の過程をしっかりと書くことの方が大事である。

この程度の解答を書くことができたら十分及第点であろう。叙任権闘争の背景を多めに書くと若干字数が苦しくなるが，教科書などを何も見ないで書くとなると，そこまで多くは記述できないであろうから，現実には少なくとも 360 字を超えるくらいの字数で解答が作成できていればよいだろう。

> 解答例は，一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば，千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

3章　中世後期Ⅰ

添削課題

解答例

ゲルマン人の大移動の際に，ブリタニアではアングロ＝サクソン人によって七王国が建てられ，829年にウェセックス王のエグバートによって統一されて，アングロ＝サクソン朝が成立した。このイングランド王国は，11世紀初頭にノルマン人の侵入を受けてデーン人の王クヌートに支配され，デーン朝の時代となった。クヌートの死後，アングロ＝サクソン系の王朝が復活したが，ノルマン人の首長ロロが建国したフランスのノルマンディー公国からノルマンディー公ウィリアムが侵入し，1066年にヘースティングズの戦いでイングランド王国を征服して，ノルマン朝を開いた。これがノルマン＝コンクェストと呼ばれる事件であった。こうした外来勢力の侵入による王朝交代によって，大陸のヨーロッパ諸国とは違い，イギリスでは王権が強い独特な封建制度の基礎が作られることになった。そのことがイギリスでいち早く議会制度の原型がつくられる背景となった。(392字)

解説

《9～11世紀のイングランド王朝の変遷》

旧来はこれくらいの難易度の問題は一橋大ではサービス問題であった。つまり，点数を与えてもらう問題なのだ。

イングランドにおける王朝交代を書く部分だけは絶対に書けなければならない。一橋大入試で中世に関する出題頻度が高いことは周知の事実であるので，なおさらである。11世紀以降に及ぼした政治的影響の部分も，イングランドの歴史においては必ず学習しておかなければならないところだ。これを知らないと，その後の身分制議会の成り立ちも，イギリス独自の絶対王政の話も理解できなくなってしまう。もちろん，ロロは直接イングランドの王朝変遷と関係がなく，こういう本題とはあまり関係のない指定語句を瞬時に見抜き，無難に処理する文章構成能力はほしい。

下手に字数を増やそうとして，イングランド王朝の変遷に関係のないことを書こうとするのはよくない。字数が十分に埋まらないからといって問題の主題に反したことを書く人が必ずいるものだが，それでは得点にはならない挙句，無駄な時間をとられてしまう。そういう状況に追い込まれないように，しっかりと知識を身につけて試験に臨みたい。

解答例は，一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば，千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製